

平成28年度第2回健康・生きがづくり推進協議会議事要旨

議題	出された意見等の概要	
<p>(1) 健康きりしま21 (第3次) 及び霧島市食育推進計画 (第3次) の計画策定概要とアンケート調査 (案) について</p>	委員	<p>アンケートの回収率について、前回の3分の1ということで、特に成人アンケートでは、健康に自信をもっていたり、普段から健康に気をつけているという人はアンケートに回答し返信するが、推察だが健康をないがしろにしている人は、設問が苦手なアンケートを出さないということが出てくれば、約36%の結果というのは、アンケートが目指すいい結果を出し、逆に回収率があがれば傾向として、いい方向ではない結果がでるのではないかと。また、回収率アップについてどのように考えているか。</p>
	事務局	<p>回収率があがれば結果がよくないということについては、確かに推測されることかもしれないが、健康増進のために広く市民の方に回答していただきたいと考えている。これまでの各検討委員会でも回収率を上げる工夫が必要との意見もいただいているので、回収率アップについて取り組んでいきたいと考えている。今のところ、郵送で送り返信用封筒で返していただくという形など、児童生徒については、学校の協力をいただけないかを検討していく予定。平成29年度は、健康きりしま21や食育推進計画策定だけでなく、霧島市として色々な計画策定の年でもあるため、アンケートの回収の方法など他の部署にも確認し連携して計画のアンケート調査の回収率を上げるように努めていきたい。</p>
	委員	<p>特に成人アンケートの回収率をあげるために、健康診断の時にアンケートを配布し任意で回答頂くとか、医療機関やかすこやか保健センターなどに置き、ある特定の曜日にだけでもアンケートを回答してもらうなどすることで回収率も上がるのではないかと。</p>
	事務局	<p>健康増進課、すこやか保健センターでは各種事業を実施しているので、そのような待ち時間を利用して記入していただくということも回収率を上げるにはいい取り組みと考える。前向きに検討したいと思う。また、未就学児保護者については、保育園・幼稚園に、児童・生徒は学校にご協力いただくなど検討していきたい。</p>
	委員	<p>アンケートは5年に1回あるということでもいいか。</p>
	事務局	<p>5年前に1回実施しており計画策定のためのアンケートとなる。前は、平成24年度に1回実施しており5年ぶりに実施する。</p>
	委員	<p>アンケート内容は前回と同じ内容で、いくつか新たなものが追加され基本的には定点観測的な形であるということで、アンケートの結果から、これまでの施策の評価を分析して振り返りをして、その中で、今後の施策にアンケートが使われるという理解でよいのか。</p>
	事務局	<p>基本的にそのように考えている。</p>
	委員	<p>生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の減少という目標項目に対して、「あなたは、週に何日位お酒を飲みますか。」という質問があり、ここに回答した人に対してどのような施策になるのか。</p>

事務局	<p>生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の減少を国も目標項目としている。国が多量飲酒を対策としている背景には、年々増えるアルコール量が、健康面ではアルコール精神病や依存症も並行して増加している傾向にあり、うつ病などの社会的な問題にも繋がっていることが多いという観点からである。本市の状況を把握するため、アンケート結果の検証を行い、関連する循環器疾患や自殺対策などの分析を行い、施策に結びつけ反映させていく。こういう単純な質問だが、現状把握の基礎材料になるものであるというところでは説明できないところだが、そのようにご理解いただきたい。</p>
委員	<p>このアンケートは、無作為抽出ということだが、成人に関しては年齢層が広いが、例えば高齢者は何%と分かっていたら教えていただきたい。</p>
事務局	<p>市では電算機が導入されており、地域、年齢層などから1500人の対象者抽出を機械的に行い、それを発送するという手法になる。中には入院されている人など回収できない人も最初から含まれている。無作為に抽出した地域や年齢のばらつきを加味した回収がされるということになる。回答しにくい人が出さないという回答者のばらつきはあるかと思うが、それをどう補正するかということは難しい事であるが、そのようなことも加味したアンケートの実施形態であるということが大事であると思われる。</p>
委員	<p>分析の背景に年齢階層など、統計分析法という手法があり、感度や精度、特異度などの評価がある。このアンケート調査の感度や精度、特異度なども出るので、それをみてアンケートを評価し分析されるので、今のアンケート調査でいいと思う。さらに精度のいい調査をするとすると、煩雑になり事務処理が大変になるので、ただ現状を把握するためには意味があると思う。また、たまたま来た人を調査するということについては、その層がどんなバラツキがあるかということも問題になるので、そのことも考慮して評価に入れれば今のやり方でいいのではないかと思う。</p>
委員	<p>「円ブリオかごしま」とは何か。また、「あなたは赤ちゃんを抱っこしたことがありますか」の質問の意図が理解しがたい。「あなたは霧島市内の温泉をリラックスするために利用していますか。」という質問は県内に特定しないといけないのか。回答にあるカタカナの文字のが小さいのが気になる。アンケートはできるだけしっかりした回答が得られる方がいいと思うが、文字数が少ない方が答える側の心理的圧力が軽減され、これなら回答しようかと思える。あまり堅苦しい表現の字が羅列されると抵抗があると感じる。回収率をあげる方法として、ペーパーレスの方法で、インターネット回答などできないかと思う。平等に地域など選ぶのが難しいと思うが、紙代や印刷代など対策ができないと思うのでまだアンケート実施まで少し時間があるので、工夫してはどうか。</p>

事務局	<p>「円ブリオかごしま」は、お腹の中の小さな命とお母さんを善意の1円募金でサポートするNPO法人で、経済的に子育てや出産費用などについて援助する窓口である。文字の大きさについては、実際のアンケートでは文字は大きくする予定。文字数については、検討していきたいと思う。「あなたは赤ちゃんを抱っこしたことがありますか」の質問は、命の大切さ、子ども達に赤ちゃんをかわいと思う経験したか、少子化で兄弟がいなかったりするので、児童・生徒でどのくらい経過しているかを把握することで思春期保健の支援に繋げていきたいという考えで設問としている。「あなたは霧島市内の温泉をリラックスするために利用していますか。」という質問は、本来は、霧島市に温泉が多く霧島市の温泉でリラックスされる人がどれくらいいるのかを把握したかったが、自殺対策検討委員会で、ご意見をいただいたように、市外にも行っている方がいるため、県内という表現をとり、温泉の利用状況を把握することとするかを検討したい。</p>
委員	<p>円ブリオについては理解できた。「あなたは赤ちゃんを抱っこしたことがありますか」の質問については、命ということを大事にするのであれば、人だけでなく動物やペットなどでもいいのかと思うがいかがか。人の赤ちゃんに着目して聞くのであれば、なにかもう少し付け加えた方がいいのではないかと思う。</p>
事務局	<p>ここに関しては、性教育などにリンクしてみたいので、「赤ちゃん」として聞いていきたいと思う。インターネット回答については、市は行政評価を導入しPDCAサイクルで毎年アンケートをペーパーを使って調査するという方法をしているが、ネットで回答を可能とすることも今の時代必要かと思う。今後、市のこのような調査もより効率的に実施していくことも検討していきたいと思う。</p>
委員	<p>県も健康かごしま21を策定しているが、児童・生徒に関しては学校をとおした方が確実に回収できると思う。成人は、アンケートを持って行き、回収しに行った方が確実に回収率は上がると思うが手間暇がかかる。送るだけだと見ない人もいる。地区の民生委員や自治会への依頼には、回収用の封筒を準備した方がいいと思うが手間がかかる。</p>
事務局	<p>民生委員さんについては、地域福祉で生活困窮者の方々の支援をいただいているところなので、通常のアンケートまでもお願いすることは難しいと思われる。また、自治会長へのお願いは無作為抽出であるため、なぜその方に調査をするのかという説明も必要で、さらに回収までお願いすることは現実的には難しいと思われる。前回の回収率が3分の1強であることから対応を考えないといけない。もう少し抽出数を増やし対象者を増やすことでデータの信用性を高めることもいいのかと思うが、通知のための費用など税金を使っており上限もあるため、適正な方法を検討していきたい。</p>
委員	<p>アンケートをどうフィードバックされるのか、使われるのか、すべて目的があり重要だと思うが、今回は霧島市の5か年の健康計画の基になるデータなので、その重要性が伝わるようにすることが大事だと思う。未提出分を再度回収する仕組みはないのか。返信のお願いをするなど。</p>
事務局	<p>アンケート未回収のところに関しては、今後検討していきたい。</p>

(2)健康生きがいつくり推進モデル事業、地域健康生きがい事業及び健康マイレージ事業について	委員	これについては、各自治公民館長会で説明されるのか。
	事務局	霧島、隼人、溝辺地区への説明会が終わり、3月29日が横川、牧園は校区単位で説明することとなっている。国分・福山地区は4月以降の説明となる。
	委員	健康生きがいつくり推進モデル事業については、病院等から看護師や医師等の講師派遣があったと思うが、今度の事業でも同じような想定と考えていいのか。
	事務局	看護師や医師、理学療法士、作業療法士など講話も依頼できるような活動内容となっている。
(3)その他		特になし。